

校友会報

大阪経済法科大学・校友会報・15号
Eメールアドレス:kouyuuikai@keiho-u.ac.jp
編集 / 大阪経済法科大学校友会事務局
〒581-8511
大阪府八尾市楽音寺6丁目10番地
TEL・FAX 072-941-8268

NO.15 校友会報・15号 2010年10月10日発行

経法祭が開催されます



学生の大イベント経法祭が11月5日(金)~7日(日)の3日間の日程(5日は前夜祭)で開催されます。校友会は例年、在学生に対する校友会のアピールと経法祭を機会に母校を訪れる校友の憩いの場を提供するために、経法祭に積極的に協力参加しています。正門を入ってすぐ右手にあるブルーのテントが目印です。このテントの下で種々の楽しい企画を行っています。今年も、餅つき大会やぜんざい・ポップコーンの販売、地域支

11/5(金)~11/7(日)

部による物産店を出すなど、卒業生とその家族、在学生、教職員、地元住民との交流ができるよう、盛りだくさんの企画を実施する予定です。また、校友会による模擬店審査で賞金を出すなどの協力を行います。

経法祭期間中には毎年たくさんの校友がこのテントを訪れ、おおいに懇親を深めています。例年、母校の発展ぶりをみたいと各支部役員を始め、多くの校友が参加しています。

校友会では、経法祭期間をホームカミングデーとして位置づけ、校友が懐かしいキャンパスに集い、交流を深めることができるよう準備を進めています。家族連れ、友人を誘って、ぜひ母校に遊びに来てください。また、参加校友にはさまざまな特典を用意しています。詳細については、校友会ホームページに掲載(10月中旬予定)しますので、ご覧ください。



女性部会からのお知らせ



女性校友のみなさんには、経法祭に参加して、校友会企画にご協力くださるようお願いいたします。ご協力いただいた女性校友にはさまざまな特典があります。

また、女性部会では3月の『女性校友の集い』に続き、女性校友が多く集まれるような新しいイベントを企画中です。企画内容がまとも次第、連絡しますので、ぜひ多数の参加をお願いします。

今年も家族連れて母校を訪問しよう

校友会ホームページを校友と校友会のコミュニケーションの場に



校友会は校友会ホームページを開設しています。校友会ホームページは大阪経済法科大学ホームページのトップページ上部にある『卒業生の方へ』タブから入ります。校友会ホームページを校友と校友会の双方向コミュニケーションの場として積極的に利用しましょう。

校友会ホームページのトップページでは新着情報が随時更新されています。また、学歌「白き学舎に」を聞くことができます。

「活動報告及び行事予定」には、校友会の最新情報やそれぞれの校友会事業の様子などを掲載しています。また、「校友会掲示板」を通じて、校友の近況や校友会事業に対する要望などをぜひお寄せください。

contents

- 第12回校友会総会
- 第5回全国支部長会議
- 2010年度校友会事業計画
- 支部だより
- 母校の近況
- 活躍する卒業生





全国各地から多くの校友が集い、 第12回大阪経済法科大学校友会総会を 盛大に開催!



吹奏楽部による演奏やウインズの平阪さんのライブ、 恒例の大抽選会など、多彩な企画が参加者を魅了

総会終了後に行われた懇親会は、吹奏楽部による「アメージンググレース」などの華麗な演奏で幕を開けた。

懇親会は三戸泰樹常任幹事(20期生)と岡本香菜子幹事(35期生)の司会進行のもと、校友会副会長の能塚正義学長補佐から開会の挨拶が行われた後、来賓の植田嘉子教育後援会会長が祝辞を述べられた。

山下浩希石川支部長(10期生)の乾杯の発声により懇親会が本格的にスタートすると、会場のあちこちで旧友との久々の再会を楽しむ、同級生の輪、先輩・後輩の輪、卒業生と教員の輪が広がった。

しばしの歓談の後、昨年和歌山県文化奨励賞を受賞したことにより校友会から感謝状と記念品が贈呈されたJ-POPアーティスト『ウインズ』の平阪佳久氏(1981年・経済学部卒)によるミニライブが行われた。平阪さんがパーソナリティを務めるFM大阪『ウインズの気分上々』(毎週日曜午前8時放送)の番組から生まれた大阪経済法科大学校友会応援歌が披露されると、会場からは盛んな拍手が送られた。続いて、上新電機のコマーシャルソングとしてお馴染みの曲「気分上々」等が次々に演奏され、途中宮本恵梨菜(ボーカル)さんも加わり、華麗な



7月24日(土)、第12回大阪経済法科大学校友会総会及び懇親会が大阪市中央区のスイスホテル南海大阪で開催された。梅雨明けから続く35度を越える連日の猛暑にもかかわらず、全国から多くの校友が参加し、教職員・在学生、関係者をあわせ200名を越す参加者が会場に集まった。

総会は小林保重幹事(22期生)の司会進行のもと午後4時30分に開会した。冒頭、伴井敬司校友会会長の開会挨拶があり、続いて校友会顧問である藤本和貴夫学長から挨拶を兼ねて、パワーポイントを使用しながら大学の近況報告と今後の大学の目指す方向性について具体的な説明があった。(詳細については4-5P参照)

その後、姜公晴常任幹事(9期生)から、校友会の歴史を振り返り、校友会の目的、活動状況及び校友会参加者数の推移、年齢構成など、校友会活動の概括的な紹介がされた後、「2009年度事業報告及び収支決算書」、「2010年度事業計画及び収支予算書」について報告・説明が行われた。

続いて、総会に参加した地方支部長及び役員から各地方支部の活動状況について報告があった。報告では、支部総会の開催、地方父母懇談会への参加などの例年行事の開催や、それぞれの地域の状況に合わせた参加者拡大や在学生への就職支援活動の試みなどが紹介された。

12回目の開催となった校友会総会は、終始厳肅な雰囲気の中で執り行われ、午後5時40分、無事閉会となった。

演奏と歌声に会場は盛大な声援に包まれた。

懇親会の掉尾を飾る大抽選会では、当選番号が読み上げられる度に参加者たちが一喜一憂し、準備された豪華賞品に会場内は大変な盛り上がりを見せた。

懇親会の最後は、恒例となった参加者全員による学歌「われらが白き学舎に」が斉唱され、おおいな盛り上がりを見せた懇親会も無事閉会した。

懇親会終了後は、校友との別れを惜しみながら来年の総会の場での再会を約束し、懇親会会場を後にした。



第5回全国支部長会議開催

地方支部の活性化を巡って 白熱した意見交換

第12回校友会総会に先立ち、第5回全国支部長会議が行われた。

会議には全国9支部の支部長及び支部役員、本部からは伴井敬司会長他の本部役員等の18名が参加した。

山下浩希石川支部長の司会で開会し、『支部活動の現況と課題及び今後の方向性』について各支部から報告が行われた。

各支部からの報告・説明をもとに討議に入り、支部活動の現状把握と活発化に向けた課題等について熱心な討議が行われた。討議の中で出された主な意見は以下の通り。



< 支部活動活性化について >

校友会総会・支部総会の開催、父母懇談会、経法祭への参加・協力が基本活動だ。この基本活動をきちんとやりきることによって組織強化を図っていく。

支部規程では年1回総会を開くとなっているが、支部総会は隔年にして、支部総会という形態ではなく、もっと多様で校友が参加しやすい企画を検討してはどうか。

支部総会のあり方は、支部それぞれ違ったやり方があっていい。大学から先生に来ていただいて講演会をしてもらったり、勉強したいという人の相談にのってもらったりなど、卒業生が魅力を感じる企画でアプローチしていかななくてはならない。

支部活動を活発に行おうとすればさまざまな経費が必要になる。支部活動費のあり方について検討を進める必要がある。

支部総会にはさまざまな年代の参加者がいる。在学生がそういう場に参加して、進路問題について意見交換をすれば就職活動の参考になる。

個別支部の活動と同時に近隣支部とのブロック単位での活動も平行して行えば、より多様な活動を展開できるのではないかと。

< 校友会事業について >

校友の願いは大学に立派になってもらいたいということ。地方にいとよけいに大学に対する想いが強くなる。大学に校友の想いをもっと知ってもらいたい。

後輩の頑張りを応援し、我々が大学の名を上げていこうという大学に対する熱い想いを持って活動している。

最初は校友間の親睦を深めるだけでいいと思っていたが校友として、支部として大学に何が出来るか考えるようになった。20~30代の若い校友が参加してくれている。在学生とも経法祭などで接点をもって校友会をアピールしている。

大学とのコミュニケーションを密にしていきたい。そうすることで、卒業後も大学と繋がっていくことができるし、大学への想いも強くなると思う。

父母は校友会についてあまり認識していないようだ。在学生や父母にアピールする方法を検討する必要がある。

大阪経済法科大学の現在、そして未来



大阪経済法科大学 学長 藤本和貴夫

第12回校友会総会にご出席いただき、誠に有り難うございます。本日は、大阪経済法科大学の現況について、皆様にご報告させていただきたいと思っております。

大阪経済法科大学は、1971年4月に開学し、来年創立40周年を迎える節目の年となります。これまで本学が社会に送り出してきた卒業生は、3万9542名にも上ります。さまざまな機会に、校友会会員の皆様とお会いする度に、私は大阪経済法科大学が、日本で働き盛りの壮年期の大学であるということ、強く実感しております。

2010年度、本学に入学してきた新生は、経済学部254名、法学部244名の合計499名であります。日本の大学が全入時代に突入したといわれる中で、本学は毎年3千名を越す入学志願者を集めることができいております。今後とも大阪経済法科大学をより一層発展させるため、大学の個性とその実績をさらに社会にアピールしていきたいと考えております。

大阪経済法科大学は、「実践のなかから真理を探究する実学の精神をもった人材の育成」と教育研究を通じて「人権の伸長と国際平和への貢献」することを目指します。

着実に成果を上げる教育改革

幸いなことに、ここ数年間、私どもが進めてきた教育改革の成果は着実に上がってきております。特に、私たちはこれまで、コース制を取り入れることによって、学生諸君の将来の進路や関心、職業選択に配慮した教育プログラムの整備に力を注いできました。法学部は、法曹コース、公務員コース、企業人コース、生活環境コースの4つのコースを、経済学部も、ビジネスコース、総合経済コース、会計ファイナンス・コース、ITキャリアコ

ースの4コースを設け、学生の皆さんからも好評で、現在の社会的ニーズに応えるものだと考えています。

また、近年は正課授業におけるコース制と特修講座であるSコースの連携を正面に掲げることで、効果的な学習が一層図られるようになりました。2009年度における成果と実績は、同志社大学法科大学院、関西学院大学法科大学院をはじめ法科大学院に22名、国家公務員種、大阪府教員、大阪府警など、公務員等採用試験に25名の学生が合格しました。また、上場企業等への就職者数113名、公認会計士試験短答式、行政書士試験等をはじめとする各種資格・検定試験合格者数803名という成果を挙げております。

本学はこの間、他大学に先駆け「1人多資格」というスローガンを掲げてきました。資格・検定試験の過去5年間の合格者の数は、年々増加傾向にあり、2007年度以降は合格者数800名台を維持しており、「資格に強い経法大」という評価を確実にしているものと考えています。また昨年度は、本学卒業生で法科大学院に入学した6名が大学院を修了し、法務博士の学位を取得しました。近い将来、本学卒業生から司法試験合格者がでることが期待されています。

キャリア教育の充実と就職支援体制の整備

このように、本学は学生の卒業後の進路を意識した教育に力を注いでいます。しかし、ご承知のとおり、日本を始め、アメリカやヨーロッパを覆う経済不況は、大学生の就職戦線に深刻な影響を及ぼしています。文部科学省も、大学における就職支援活動が緊急の課題であると認識しており、大学に対する財政支援

をはじめしております。

本学も、文部科学省の「大学教育・学生支援推進事業」の学生支援プログラムに応募し、「不況下における学生の個別ニーズに対応した就職支援体制の構築」事業が、2009～2010年度の2年間採択されました。現在は、その就職支援事業として、学生就職指導部を中心に学生に対する多様な就職支援活動を行っています。その内容は、Webなど最新のITを活用して、就職に関する情報システムの充実を図り、学生諸君が就職情報をすばやく的確に入手するようにすること、合宿や講演会によるキャリア教育の充実、さらに就職部に専門キャリアカウンセラーを増員して進路・就職の相談体制を強化すること(たとえ休日でも携帯電話によって相談できる体制がとられています)、キャリア教育及び就職活動に関する教育力を高めることを目的とするもので、それらを実行しています。



北京大学総長(右)と協議

国際化、課外活動 学生一人ひとりが輝く大学へ

教育の国際化では、英語圏留学コース、中国留学コース、韓国留学コースを立ち上げており、インターンシップについても、本学卒業生の皆様の協力により、海外における企業研修も増加しております。また、姉妹大学学生間のユニークな交流として、本学と韓国ソウルの崇実大学校、中国上海の復旦大学の学生による、日中韓の3大学学生による3カ国セミナーが開催されております。これは、3大学の学生と一緒にソウル・大阪・上海をまわって合同のフィールドワークを行い、東アジアが直面している諸問題を3つの都市で討論するものです。本年度からは、ロシアにある本学の姉妹校であるウラジオストクの極東総合大学と台湾大学も参加して行われます。セミナーでは、英語が共通語として使用されて、セミナーにおける討論の場は一般の方々にも公開されています。これを、新しい形の国際交流として定着させたいと考えています。

学生のクラブ活動では、7月にモンテネグロで開かれた「第7回世界大学空手道選手権大会」で梅木香奈選手(法学部4年)が、

3位入賞を果たしました。テコンドー部からは、4月にカザフスタンで開かれた「第19回アジアテコンドー選手権大会」に、小林穂奈美選手と三橋佑樹選手が日本代表として出場し、活躍しています。また、囲碁部は、6月に関西学生囲碁リーグで2年ぶり3度目の1部昇格を果たしました。

地域に根ざした大学を目指して

近年、地域との連携が大きく展開しています。地元八尾市との間では、図書館や国際交流センターとの連携協定など、数多くの連携を進めていますが、特に近年は、環境問題を軸とした多くの共同の取り組みが進んでいます。

本学を会場として開催される「いきいき八尾環境フェスティバル」は、すでに地域の枠を超えたイベントとなっています。学内の「ふれあい池」には、絶滅危惧種である「ニッポンバラタナゴ」が放流され、飼育・保護・観察されていますし、学内の裏山を里山として保全する準備も進めており、環境問題に関する大学間のネットワークが広がっています。

施設の面では、花岡キャンパスに「新学生ホール棟(仮)」が建設中です。1階がキャンパスレストラン、2階がカフェラウンジ、3階が講演会やコンサートなどを開催するプレミアムホールとなっており、屋外ウッドデッキテラスからは大阪平野を一望できます。来年の春に完成予定で、校友会の皆様にもご利用いただきたいと考えています。

さらに、2012年2月の完成に向けて、近鉄八尾駅前に新しいキャンパスを建設する計画を進めています。このキャンパスは、駅から徒歩5分の距離に位置し、「キャリア形成教育の充実」、「プロフェッショナルの育成」、「高度情報化社会への対応」、「地域との連携による社会貢献」を目指します。大阪でも有数のハイテク中小企業の集積地という地の利を生かし、ここでは対話型少人数教育による実践重視の授業が展開されます。

私たちは今後も、教育研究や社会との連携などにおいて、建学の理念を実現するため、あらゆる可能性を追求していきたいと考えています。校友会の皆様には、今後とも、後輩たちのためにご支援ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。



ふれあい池での「ドビ流し」

2010年度校友会事業計画

2010年6月5日開催の校友会幹事会で承認された2010年度校友会事業計画及び収支予算書は以下の通りです。既に実施済みの事業については、概略を記載しています。

1 第12回校友会総会・懇親会の開催

参加者拡大のため、地域支部からの参加者支援の継続、若年層の参加促進、留学生OB・OGの参加促進を行うことを基本方針として取り組んだ。校友、教職員、在学生等約200名が参加したが、10周年記念総会であった昨年よりやや減少した。

開催日:2010年7月24日(土)
会場:スイスホテル南海大阪



2 学生活動支援

在学生支援を充実させることで大学生活を応援するとともに、校友会の存在意義を伝え、併せて卒業後の校友会事業への参画意識の醸成をはかる。

1)卒業生支援

- 卒業生に卒業記念品として校友会ネーム入り学位記カバーを贈呈する。
- 卒業生が教職員・在学生と懇談できる卒業祝賀会を実施する。

2)経法祭支援

- ホームカミングデーとして位置づけ、校友が多数参加できる企画を実施する。
- 校友会模擬店の出店、学生模擬店コンテスト実施、経法祭実行委員会への援助等を行う。

3)課外活動支援

- 学生団体などからの申請により、課外活動に必要な経費の援助を行う。

4)学習支援

- 学生の資格取得支援等に必要な経費の援助を行う。

5)留学生支援

- 留学生と在学生との交流行事「異文化交流会」の参加費の援助などを行う。



3 支部活動支援

1)全国支部長会議の開催

第5回全国支部長会議を総会当日開催し、各支部における取組や今後の活動のあり方について活発な意見交換を行った。

2)支部設立支援

支部活動支援を継続して行う。本部と支部との連携強化など、支部活動活性化のための取組を行う。



3)地方父母懇談会協力事業の継続

全国6会場(高知・高松・那覇・岡山・広島・石川)で開催された父母懇談会に校友会支部役員が参加し、在学生父母と懇談を行った。

4 広報

1)校友会報第15号の発行

校友会と校友とのコミュニケーションツールとして校友会報15号をより内容を充実して発行・送付する。

2)校友会掲示板の設置

在学生への校友会情報の発信を促進するために、学内に校友会専用掲示スペースの確保する。

3)校友会ホームページの充実

行事予定・活動報告・各地方支部の情報など、定期的に内容を更新し、校友に新しい情報を提供する。校友会掲示板を活用した校友との双方向コミュニケーションを活性化させる。

5 組織運営・事務局体制

1)校友会運営の活性化のために系統的な他大学組織の視察・資料収集を行う。

2)事務局機能の強化をはかる。

6 その他

新学生ホール棟(仮称/2011年2月に竣工予定)竣工を祝賀して、校友会から記念品を贈呈する。



2010年度校友会収支予算書

2010年4月1日から2011年3月31日まで
(単位:円)

収入の部				
項目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減	備考
1. 校友会費				
準会員	12,755,000	14,335,000	1,580,000	
正会員	500,000	300,000	200,000	
特別会員	200,000	100,000	100,000	
2. 総会・懇親会参加費	600,000	450,000	150,000	
3. 10周年記念事業				
種立金より繰入	0	10,000,000	10,000,000	
4. 受取利息	7,500	22,400	14,900	
小計	14,062,500	25,207,400	11,144,900	
前年度繰越金	11,244,894	8,403,236	2,841,658	
収入の部合計	25,307,394	33,610,636	8,303,242	
支出の部				
項目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減	備考
1. 総会				
総会等運営費	2,300,000	5,400,000	3,100,000	総会・講演会・懇親会開催費等
会議費	0	200,000	200,000	総会運営企画会議等
印刷製本費	80,000	150,000	70,000	総会案内状印刷費
旅費交通費	600,000	1,000,000	400,000	支部役員等出席旅費
通信費	1,400,000	1,500,000	100,000	総会案内状発送費
2. 幹事会				
会議費	500,000	800,000	300,000	幹事会・常任幹事会・専門部会
旅費交通費	500,000	500,000	200,000	支部役員等幹事会出席旅費
3. 支部活動等支援				
会議費	500,000	800,000	300,000	支部総会・支部長会議開催費等
旅費交通費	600,000	950,000	350,000	支部総会等の出席旅費等
活動援助費	400,000	900,000	500,000	支部運営・企画補助費等、女性校友の集い
支部設立準備費	100,000	300,000	200,000	支部地域支援費等
父母懇談会協力費	250,000	350,000	100,000	父母懇談会(地方5会場)共催費
4. 会報・広報				
リーフレット	0	200,000	200,000	
印刷製本費	1,400,000	1,700,000	300,000	校友会報印刷費
通信費	1,500,000	1,600,000	100,000	校友会報発送費
報酬委託手数料	300,000	300,000	0	校友会報発送代行費、HP制作費
5. 学生支援				
卒業記念品等	700,000	600,000	100,000	学位記カバー贈呈
卒業祝賀企画費	800,000	1,000,000	200,000	
経法祭支援費	900,000	700,000	200,000	参加企画、実行委員会援助
学生活動援助費	1,350,000	1,800,000	450,000	クラブ活動、学習支援、異文化交流等
6. 共通・事務費				
印刷製本費	100,000	100,000	0	
消耗品費	100,000	150,000	50,000	八ガキ等
通信費	400,000	400,000	0	事務用品等
報酬委託手数料	20,000	20,000	0	支部活動通信費、電話費等
人件費	1,200,000	1,200,000	0	振込手数料等
渉外費	50,000	50,000	0	事務局人件費
雑費	50,000	50,000	0	
7. 10周年記念事業				
10周年記念事業種立金繰入	0	1,000,000	1,000,000	*2009年度で終了
10周年記念準備経費	0	0	0	
設備・備品等	0	3,000,000	3,000,000	
10周年記念事業企画費	0	530,000	530,000	校友会事務局設備(調度・備品)
予備費	0	300,000	300,000	学生団体等交流費等
8. 周年事業				
大学周年事業協力費	500,000	0	500,000	
9. 予備費	100,000	1,000,000	900,000	
小計	16,700,000	28,550,000	11,850,000	
次年度繰越金	8,607,394	5,060,636	3,546,758	
支出の部合計	25,307,394	33,610,636	8,303,242	



地域支部役員、各地の父母懇談会で 在学生父母と懇談

毎年6月から7月にかけて、全国で在学生父母対象の父母懇談会が開催される。校友会では、2006年度からこの父母懇談会に参加して、ご父母と校友会地域支部役員との懇談会を行っている。

2010年度は石川支部、岡山支部、広島支部、高知支部、香川支部、沖縄支部の計6支部から支部役員が参加した。

広島会場 の懇談会では、塚塚正義校友会副会長・学長補佐から開会挨拶があり、栢田博昭支部長の挨拶の後、懇談を行った。最初はお互いが堅い表情で

あったが、時間が経つに連れ、和やかな雰囲気での懇談が進められた。

当日参加した支部役員から、広島地区の経済環境、企業が求める人物像、自身が働いている業界の現状などについて、また、今後も在学生の就職支援のための活動を具体的にやってきたいと語られると、父母が興味深そうに聞き入っていた。

懇談会では父母と活発な意見交換が行われ、校友会地域支部の新たな活動として徐々に定着してきている。



第10回沖縄支部総会



2010年7月3日(土)、沖縄県中頭郡北谷町北前の「炭火焼居酒屋 炎やこら! 屋」にて第10回沖縄支部総会が開催された。総会には、14名の沖縄支部校友と本部から三戸泰樹(20期生)・姜公晴(9期生)常任幹事及び町田朋佳(33期生)幹事が出席し、総会及び懇親会が成功裏に開催された。

支部総会は、午後6時から嘉数武会計監査の司会により会議室で行われた。冒頭、新里靖副支部長より「沖縄支部は、1999年9月に結成され10年の歳月が経過し、参加者数が少しずつではあるが増加している」「今後は、卒業生のみならず沖縄出身の在学生との交流ができればと考えている」「ぜひ来年は、在学生との交流を図れるような総会とし、開催時期については、在学生が参加しやすい時期を選びたい」「本日参加していただいた校友の方と今後の沖縄支部

第7回高知支部総会

2010年6月26日(土)第7回高知支部総会が高知市内の高知新阪急ホテルで開催された。今回の支部総会には校友12名及び本部から春山利夫(学生部次長)及び江川充彦(17期生)の2名の幹事が参加した。

冒頭、小橋光生高知支部長より開会の挨拶があった。また、参加者からそれぞれ自己紹介と近況報告があり、本部からの参加者からは大学の近況等を兼ねた自己紹介があった。

続いて小橋支部長より、高知支部の活動や在学生の就職活動支援及び大学への要望等についての提案が行われた。支部の活動については「活発な校友会

支部活動を行うために、支部の会員増をめざす」ことを、本年度の重点目標とし、支部会員相互の連携、学生・保護者への支援活動、定期的な支部役員会の開催などを積極的に行っていくことが確認された。

また、支部幹事の改選について、小橋支部長よりこれまでの支部幹事に加え、新たに6名の校友が新幹事として推薦され、了承された。その後、本部役員より2010年度校友会事業計画及び校友会総会の進捗状況等について報告があった。

その後、質疑応答、今後の支部活動の運営について活発な意見交換が行われた後、小島正裕副支部長より挨拶があり総会は閉会した。

支部総会終了後、会場を同市内の「ま

ぐるDining 花まぐる」に移し、懇親会が開催された。年一度の校友同士による懇親の場ということもあり、開始早々から活気と笑いの絶えない雰囲気に入れ、旬の料理と美味しいお酒を味わいながら、年代の差を感じさせない一体感のある雰囲気での懇親会が行われ、校友同士、楽しいひと時を過ごした。



第4回東京支部総会



2010年4月16日(金)、大阪経済法科大学東京麻布台セミナーハウスにて第4回東京支部総会が開催された。総会には、4期生から34期生までの関東エリア(1都6県)の校友と、教養部の山路崇正講師(28期生)、本部から西澤十三夫(就職課参事)・姜公晴(9期生)常任幹事を含む22名の校友が参加した。

総会では、宮松久浩支部長(9期生)から「4年ぶりの開催であるが、多数の校友の方に参加していただき感謝している」「今後の東京支部あるいは関東圏での校友会の発展のために皆さんのご意見をいただきたい」との挨拶があり、引き続き西澤常任幹事から挨拶が行わ

れた後、参加者からの自己紹介、母校の現状と校友会活動についての報告が行われた。

報告の後、議案審議に入り、最初に「第4期支部役員選出」が行われた。役員選出では、宮松支部長より現役員全員の留任と会計監査を有川幹事から田中幹事へ交代することが提案され承認された。続いて、総会参加者から新役員を募ったところ、高嶋知己(法学部28期生)さんが立候補し承認された。次に「今後の支部活動について」の意見交換を行い、

2011年4月に第5回東京支部総会を開催する 第12回校友会総会へ東京支部からも参加することが確認された。

支部総会終了後、会場近くの鹿児島料理「おいどん」麻布店において懇親会が行われた。初参加の校友も多い中、世代や性別を超えて(同窓のご夫婦が子供と一緒に参加)、和気あいの雰囲気の中、大学時代を懐かしみ、親睦を深めることができた。



の活動について忌憚りの無い意見交換をし、親睦を深めることができれば幸いである」との開会挨拶があった。

引き続き、キャンパスリニューアル計画を推進している母校の近況 2010年度校友会事業計画 第12回校友会総会について 校友会の今後の課題について、などの報告が行われた。

報告の後、今後の沖縄支部の活動計画について意見交換が行われ、第12回校友会総会へ沖縄支部からも参加する 次年度の沖縄支部総会は9月に開催し、在学生にも呼びかけてビーチパーティーを行う、ことが確認された。

総会終了後には、懇親会場に移動し、東京から支部総会参加のために帰郷した会員や新参加の会員、そして総会参加常連会員が出席して、大いに親睦を深めることができた。

愛知・三重合同支部総会



2010年6月19日(土)愛知(第5回)・三重(第3回)合同の支部総会が名古屋クラウンホテルにて開催された。本部からは北垣義弘(7期生)、前吉克明(8期生)、西澤十三夫(就職課参事)の3名の常任幹事が参加した。愛知支部の岸副支部長の司会進行で開会、最初に愛知支部の中町支部長より三重との合同支部総会開催に至った経緯と本日の支部総会・懇親会を楽しみ集りしたい旨あいさつがあった。

続いて三重支部の中須支部長より、本日の「合同開催」は愛知支部の全面的な協力があってこそ可能となったこと、こうした新しい試みが将来的には「校友

会東海ブロック」などに発展する第一歩となるのではないかと、等の挨拶があった。このあと北垣、西澤両常任幹事より2010年度校友会事業計画及び母校の近況等の報告があり、出席者全員が自己紹介及び近況報告を行った。

こののち支部ごとの議事に入った。まず愛知支部では中町支部長より支部活動の現況報告、それにもとづく意見交換があり、そののち役員改選が行われた。続く三重支部の議事では、活動現況の報告、活動計画案をめぐる意見交換、役員改選、等が行われた。



合同支部総会終了後、同ホテル内の「菊の間」で懇親・交流会が開催された。約3時間余り夕食を囲みながら、和やかな雰囲気の中懇親・交流を深めあった。

第8回広島支部総会



2010年8月21日(土)、第8回校友会広島支部総会及び懇親会がANAクラウンプラザホテル広島で開催された。本部からは藤本和貴夫学長(校友会顧問)、八瀬林肇副会長(6期生)及び丸井龍夫(図書課長)常任幹事の3名が参加した。

定刻午後6時に柘田博昭支部長から、

「校友会広島支部も結成から10年が過ぎた。これからもう少しづつ輪を広げて、若い世代がどんどん参加するような支部にしていきたい。また、山口や島根などの近隣の校友にも声をかけて、連携して活動を行っていきたい」との開会挨拶が行われた。

続いて、大学代表として藤本和貴夫学長から、来賓挨拶を兼ねて詳細な母校の近況報告があった。その後、支部総会出席者からそれぞれの自己紹介及び近況報告が行われた。

議事では、丸井常任幹事から、2010年度校友会事業について報告され、引き続き、今後の支部活動について活発な意見交換が行われた。続いて柘田支部長から、「第5期広島支部役員は、第4期支部役員の留任及び新規参加者の支部役員への就任」との役員改選の提案があり、承認された。

第2部の懇親会は屋上のビアガーデンに会場を移して行われた。懇親会は、八瀬林肇校友会副会長からの挨拶及び

乾杯により開会した。当日は35度を超える猛暑日だったが、会場の屋上会場ビアガーデン(23階)には爽やかな風が吹き、冷たいビールジョッキを傾けながら、広島支部の支部活動活性化について熱っぽい意見交換が行われた。

約2時間にわたり、和やかな雰囲気の中で校友が親睦を深めた。最後に橋高功副支部長から閉会の挨拶があり、またの再会を約して散会した。



出口寛常任幹事(22期生)、ゲスト講師として後輩にアドバイス!



出口寛常任幹事(有限会社ソシヤ代表取締役)が、経済学部専門教育科目「経営実践」のゲストとして講演を行った。

この「経営実践」とは、実際に商店街の貸店舗を借りて経営を体験する実践的な正課の講義科目です。今回のゲスト講師は、担当教員である山路崇正講師が、実際に商店街で店舗経営をしている出口常任幹事に依頼して実現したものである。

6月29日の2時限目、「経営実践」の授業が始まり、先ず学生たちが作成した「事業計画書」が報告された後に、出口さんから事業計画に対するアドバイスが行われた。

引き続き、出口常任幹事から「経営の心構え」「準備すべきこと」「進捗管理」等についての講演が行われた。1ヶ月後に近鉄瓢箪山駅前商店街HIGAWARI館にて、実際に店舗をかまえる学生たちは真剣な面持ちで講演を聞いていた。

出口常任幹事は、後輩たちに「失敗を恐れず、商品売るのではなく笑顔で売る気持ちで、いらっしやませ、ありがとうございます、申し訳ございません、の気持ちを大切に頑張ってください」とエールを送った。

授業終了後も、学生たちの質問は途切れず、社会で活躍する卒業生との「学びの空間」は在学生にとって貴重な経験となった。

「経営実践」授業の目標(シラバスより)
店舗経営の体験学習(近鉄瓢箪山駅前商店街の「HIGAWARI館」経営)を通じて、経営戦略、事業計画、マーケティング、会計、グループのなかでの意思決定やリーダーシップなどビジネスの基礎を学ぶ

母校の近況

第7回世界大学空手道選手権大会で銅メダル!

梅木香奈さん(法学部4年生)が5月30日(日)に行われた最終選考会での優秀な成績と気迫あふれる試合内容が高く評価され、6月3日(木)に全日本学生空手道連盟の推薦を受け、7月15日(木)~18日(日)の4日間、モンテネグロ国(首都:ポトゴリツァ)で開催される第7回世界学生空手道選手権大会に、日本代表(68kg級)として選出されました。



帰国後、学長に戦績報告を行った梅木選手

モンテネグロ国(首都ポトゴリツァ)で開催された第7回世界大学空手道選手権大会において、日本代表として出場した空手道部の梅木香奈選手(法学部4年生)が、個人戦女子組手68kg級で見事銅メダルを獲得しました。梅木選手は、団体戦女子組手のメンバーにも選出され、銀メダル獲得に大いに貢献しました。

同大会は、FISU(国際大学スポーツ連盟)公認の世界大会で、学生のオリンピックと言われる「ユニバーシアード大会」と同等の権威ある大会です。

関西学生卓球選手権大会で男女ともに好成績

5月28日(金)~30日(日)に京都府立体育館と近畿大学記念会館で開催された第79回関西学生選手権大会において、卓球部の水内大介さん(経済学部2年生)と酒井晟行さん(経済学部1年生)のペアが男子ダブルスでベスト4に、林正偉さん(経

母校の近況



済学部1年生)が男子シングルスでベスト8という好成績を収めました。

また、女子シングルスでも下之段志保さん(経済学部4年生)と劉浩さん(経済学部2年生)が、それぞれベスト8進出を果たしました。

囲碁部 2年ぶり3度目の1部昇格&将棋部全勝優勝で初のB級昇級

5月29日(土)・30日(日)、6月6日(日)の3日間、関西学生囲碁連盟春季リーグ戦がアルプス江坂で開催され、囲碁部が2部リーグで全勝優勝を達成し、見事1部への自動昇格を果たしました。

2部2位でスタートした春季リーグ戦は、大阪市大に4対1、京都産業大に3対2、桃山学院大に4対1、甲南大に5対0と無難に勝ち上がり、2部1位の関西学院大との全勝対決も4対1で制し、2年ぶり3度目の1部昇格を決めました。

また、6月6日(日)、同志社大学で開催された関西学生将棋連盟春季一軍戦で、将棋部が全勝優勝を成し遂げ、秋季一軍戦から初のB級昇級が決定しました。

第19回アジアテコンドー選手権大会で優勝者に惜敗

5月20日(木)~23日(日)の4日間、第19回アジアテコンドー選手権大会がカザフスタン共和国の首都アスタナで開催され、テコンドー部から三橋佑樹さん(経済学部1年生)、小林穂奈美さん(経済学部2年生)の2名が、日本代表として出場しました。



試合は、三橋さんが2回戦惜敗(優勝した韓国選手に判定負)、小林さんが1回戦で惜敗(判定負)するという残念な結果になりましたが、2012年ロンドンオリンピック出場を最大の目標に掲げる両選手にとって、海外強豪選手との対戦は大変貴重な経験となりました。

証券研究関西学生連盟主催 「春季セミナー」関西ブロック大会を初制覇

6月20日(日)、金融・経済の専門分野をテーマとする大学対抗の討論会である、証券研究関西学生連盟主催の「春季セミナー」関西ブロック大会が大阪経済大学で開催され、経済学部の深瀬ゼミ(参加学生下記参照)が「大学生に対する金融教育について」をテーマにしたセッションで、競合大学を論破し、見事初優勝の栄冠に輝きました。

同大会は、事前に提出した論文と当日の討論によって順位が決定され、本学チームは欧米の金融教育とは異なる日本独自の在り方を追求した独創性、討論における積極性とチームワークが評価されました。



深瀬ゼミ参加学生(すべて経済学部3年生)
チームリーダー:曾我部祐平さん(写真中央)
写真左から、高木良輔さん、鍋谷傑史さん、加藤大輔さん、高良大樹さん、中井悠貴さん(後列)

2010年度「地域IT講習会」を開催

7月25日(日)、8月22日(日)の2日間、本学6号館で2010年度「地域IT講習会」が開催されました。

今年度の講習会には、4つのコース(作ってみよう!私だけのよばりレシビBook、インターネットで観る・知る世界遺産、夏の思い出保存版パワーポイントフォトアルバム、今から備える!2011素敵な年賀状)が準備され、地元八尾市民をはじめ近隣地域の皆さん約150名の方々に参加しました。

当日は、担当講師をはじめサポートスタッフの指導のもと、実際にパソコンを使用しながら実践形式で進められ、講習会に参加した市民からは「新しい事をたくさん覚えられてよかった」、「講師の教え方が良く、とてもわかりやすかった」等の感想が寄せられました。



八尾市役所に絶滅危惧種 ニッポンバラタナゴを提供

8月16日(月)、本学学生が主体となって活動する環境活動グループ「ECO〜る KEIHO」が、ふれあい池に生息する絶滅危惧種ニッポンバラタナゴ、メダカ、ヨシノボリを持って、八尾市役所を訪問しました。

今回の取組みは、八尾市環境事業部から八尾市役所1階にある展示用水槽に、ニッポンバラタナゴなどの魚を新たに補充したいとの協力依頼があり、実現したものです。

当日は、田中誠太八尾市長も現場を訪れ、作業を行う学生たちに優しく声をかけ、記念撮影をしていただきました。



東大阪市より漫画アニメーション研究会に 感謝状が贈呈

8月18日(水)、東大阪市役所において「東大阪市第2次総合計画後期基本計画(イラスト版)」完成記者会見が行われ、本学から漫画アニメーション研究会部長の熊井宏さん(法学部3年)と吉田侑矢さん(経済学部4年)が出席し、野田義和東大阪市長より感謝状が贈呈されました。

本学をはじめ4大学の協働で作成された「イラスト版」は、A4版24ページで、「序論」「部門別計画」「地域別計画」「行財政編」の4つの内容で構成されています。漫画アニメーション研究会は、「部門別計画」と「地域別計画」を担当し、全体の約半分のページの作成に関わり、「イラスト版」の完成に大きく貢献しました。

「東大阪市第2次総合計画後期基本計画(イラスト版)」は5万部作成され、東大阪市立の小中学校と市立日新高等学校をはじめとする市内の各学校に配布されるとともに、「出前講座」等を通じて東大阪市のまちづくりに活用される予定です。



第5回市民無料法律相談を開催

6月26日(土)、八尾市文化会館プリズムホールにて、第5回目となる市民無料法律相談が開催されました。

この市民無料法律相談は、大阪経済法科大学法学部と法学会の共催で実施されたものです。当日は、梅雨空にもかかわらず

多くの相談者が会場を訪れました。

弁護士の前田春樹先生(元大阪弁護士会副会長)をはじめ、本学教員の相談員は、一つひとつの相談に真摯に対応していました。また、法律相談会を中心とする学生スタッフも相談に同席して補助業務に携わるなど、大学の講義では味わうことのできない貴重な学修機会を得ることができました。

2011年春の完成に向け、 「新学生ホール棟(仮称)」の建設工事進行中



花岡キャンパスに新たな コミュニケーション空間が誕生

「新学生ホール棟(仮称)」は、キャンパスレストラン、カフェ・ラウンジ、イベントホールを備え、学生が快適なキャンパスライフを過ごすための空間として開設されます。

地上3階建ての同棟は、1階にメインのダイニングとなる「キャンパスレストラン」、2階に授業の合間などに休憩できる「学生ラウンジ」、3階は様々なイベントを実施する「プレミアムホール」を設置する予定です。

「新学生ホール棟(仮称)」は周りの景観にマッチするよう白を基調としています。緩やかなカーブを描く黒の三角屋根は学生のための「家」を象徴するとともに、キャンパス全体にアクセントを与えるデザインになっています。

キャンパスの賑わいと四季を感じる開放的空間 「キャンパスレストラン」

白と木目調を基調とした内装デザイン、3.8mと高く設計された天井が、清潔感とゆとりのある空間を作り出します。また、南側の壁は全面ガラス張りとなっており、自然光を取り入れると

同時に、四季の変化やキャンパスの賑わいを感じることができ



ゆったりと楽しく交流できる憩いの空間 「学生ラウンジ」

様々なタイプのソファやテーブルが配置され、中央にはドリンク・軽食を楽しめるカフェが開設されます。ゆったりと読書をしたり、友人と楽しく語ったりと、様々なキャンパスシーンでの利用ができるよう工夫されています。



様々なイベントを想定した感動の発信拠点 「プレミアムホール」

様々なイベントに対応できるホールとして、スクリーンやプロジェクター、放送・音響施設を完備し、多目的に活用できるように計画しています。講演会や各種セミナーなどはもちろん、学生主催のコンサート・ライブなどの会場としても利用できます。また、大阪平野を一望できる屋外ウッドデッキも兼ね備えています。



100年に一度の世界不況の中 独自の技術力で躍進する皆見電子工業

皆見 孝さん

皆見電子工業代表取締役社長
(経済学部8期生)

切る、削る、明ける、抜く、刷る、この5つの技術で業界の最先端をいく皆見電子工業。携帯電話、カーナビゲーション、自動販売機、我々が日常生活の中で無意識のうちに享受しているさまざまな利便性を皆見電子工業の製品が支えている。

1966年、松下電子部品との取引開始を契機に父親(現在は会長)が創業した。その後の厳しい経済環境の中でも、自社製品、自社開発にこだわり、高い技術力と品質によって着実に業績を伸ばしてきた。年間売上額は30億円を超え、従業員数も250人を越えた。

皆見 私たちが当初作っていたものは、可変抵抗器といわれるものでした。簡単に言えばボリュームを調節する部品ですね。ここからスタートして、その製品の元となる基盤の加工を中心に製造してきました。

最近プリント配線板というものを中心に製造しています。この銅板の上にいろんなパターンを焼き付けていくわけです。我が社では写真法で焼き付けているのですが、さまざまな配線を焼き付けたり、剥離したりすることで配線板を完成させています。

自動車の基幹部品、一般に車載品といわれるものは安全性が最優先されるために、安易に海外で生産することができません。国内で生産して品質保証をするために、

我が社のような技術力のある所に需要があるのです。携帯電話の中にもプリント配線板が使われています。

日本国内から中国やその他の発展途上国に生産拠点を移す企業が増えています。製造が簡単で安価な製品はほとんどが中国で製造されていますが、現在国内に残って製造を続けているのはハイレベルの高密度基板です。これは1枚の板のように



見えますが、10層になっています。いわば10階建ての建物のようなものです。この中に複雑な回路が張り巡らされています。いままでは非常に大きな板の上にしか組み込めなかった回路を凝縮して製造することが可能になったのです。

回路が複雑になったおかげで様々な機能をもった携帯電話やカーナビゲーションといった製品の製造が可能になったともいえるのです。

パナソニックを始め、ソニーやイビデンといった日本の大手電子部品メーカーが取引相手だ。2000年には石川県能美市に工場を新設し、生産能力を増強した。中国進出は全く考えていない。同業者の中には工場を移転したところもあるが、国内生産にこだわる。進出しても、実際にはうまくいっていないところが多い。

長年の地道な企業活動が認められ、交野、枚方、寝屋川市で50社しかない優良法人の一つに認定され、表彰された。3人兄弟の長男に生まれた。小さいときから会社を継ぐように父親や祖母から言い含められてきた。

皆見 今にして思えば、結構平凡な学生時代を送りましたね。私が入学した当時は応援団が学内を闊歩していましたね。どこかのクラブに入っていないと強制勧誘されるんですね。しかたなく、陸上部に入部しました。アルバイトをして、金を貯めては車を買って、自分で整備して乗っていました。単位は留年しないように適当にとりました。

学生時代の一番の宝は友人ですね。いまでも連絡を取り合っています。私が入学した頃は、親が事業や商売をしている学生が多かったような印象がありますね。今でも連絡を取っている友人の家庭はだいたいそうです。時々会って近況を語り合うと互いに刺激を受けますね。もっとがんばろうと思いますね。

長男だったので、学生時代から将来は会社を継ぐという意識がありました。そのため学部も経済学部を選んだのです。卒業後はしばらく大阪ガス関連の会社で社会人としての基本を学んで、25年ほど前から会社に入り、一つ一つ現場で仕事を覚えていきました。3年前に、ようやく父親に認められ取締役社長に

就任しました。

将来的には世界を相手に技術力で勝負していかなければならないと思っています。そのために、長男をオーストラリアに留学させ、英語と国際感覚を養わせました。やはり親の近くにいると甘えが出るので、現在は石川工場仕事を覚えさせています。

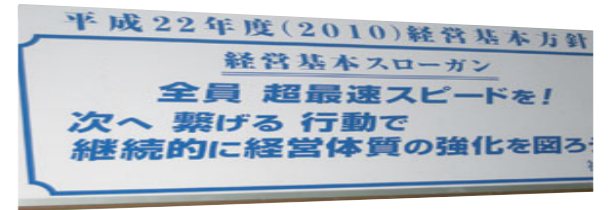
100年に一度の不況に見舞われた。そんな中でも、プリント基板における独自の技術力と高い品質によって業績を伸ばしてきた。蓄積した加工技術を集約して世界に1台しかないCCDカメラ・アライメントルーター加工機を独自開発した。また、数千万円の切削機械も10数台購入するなど、設備投資も積極的に行ってきた。

運にも恵まれた。社長に就任してすぐに石川工場に電飾看板を掲げた。たまたま、そこを通りかかった取引先から技術力を評価され、ノキア社の携帯電話に製品が採用されるなど、受注量は右肩上がりの増加を続けている。

皆見 宮本武蔵の「我、事において後悔せず」という言葉が好きですね。何事においても自分の決断したことは自分が責任を取るしかないわけですから、後から後悔はしません。その気持ちでこれまでがんばってきました。

私は「大改造!!劇的ビフォーアフター」という番組が大好きでね。顧客のニーズはどこにあって、どうすれば解決できるか、発想の原点をそこにおいて匠の技を使いながら喜んでいただく。そういったことをやっていきたい。従業員に心配をかけるようなことをしてはいけません。従業員の家族からも勤めてよかったと思ってもらいたい。そういった会社にしていきたいと思っています。

国内にはまだまだ顧客はたくさん存在しています。それを地



道に開拓しながら新しい分野にも進出していきたい。切る、削る、明ける、抜く、刷る、この分野の技術には絶対の自信があります。これらの技術は木材やガラス製品の加工など、プリント基板以外にもいろんな製品加工に応用できるんです。現在の技術をもっと高めてそういった分野にも参入していきたいと考えています。

それから本当に夢が終わるかもしれませんが、やはり環境問題に関連した事業を展開したいと思っています。たとえば太陽光発電やLEDの技術を使って安全・衛生的な農産物を生産したらどうかと考えています。たまたま石川工場に空きスペースがあります。工場内は温度・湿度などは厳重に管理されているので、そういった農産物を生産するための条件は整っています。

目先の利益を追い求めるのではなく、自然のエネルギーを使って企業としての社会貢献ができればいいなと思っています。数年後には、私たちが生産した野菜を食べてもらえるようになるかも知れません。実現できるようにがんばります。

最近の若者について聞くと、大変厳しい答えが返ってきた。人間力が足りないのではないかと。世界を相手に競争していくとすれば、積極的に前向きな人材でなければならないという。最近の厳しい就職環境に置かれている母校の後輩に対して、励ましのエールをいただいた。

皆見 最近の若者は会話力がないですね。人の話を聞かない。携帯電話が発達したせいかも知れませんね。時間があるとすぐに携帯電話を触っている。我が社では仕事中は携帯電話に出ることを禁止しています。

採用環境が厳しいという話はよく聞きます。そんな中でも我が社ではできるだけ優秀な人材を求めていこうと考えています。現場作業が中心なので、これまでは理系の高校・大学から採用してきました。将来的な会社の発展を考えれば、文系からも優秀な人材を採用しなければなりません。一度母校の大阪経済法科大学に求人を出してみようと思っているので、是非とも意欲のある学生はチャレンジしてみてください。